



2022年2月18日

各位

会社名 株式会社 マルマエ
代表者名 代表取締役社長 前田 俊一
(コード番号: 6264 東証第一部)
問合せ先 管理本部長 下舞 毅
(TEL. 0996-68-1140)

2022年1月度 月次受注残高についてのお知らせ

当社は、投資家をはじめとするステークホルダーの方々に、より正確に当社を理解していただくために、自社情報のタイムリー・ディスクロージャーを推進しておりますが、その一環として、下記のとおり2022年1月度の月次受注残高を開示いたします。

記

1. 月次受注残高

(百万円未満切捨て)

区分	受注残高	割合	対前月増減率	対前年同月増減率
半導体分野	1,776	64.7%	2.6%	155.0%
FPD分野	829	30.2%	12.0%	267.9%
その他分野	139	5.1%	16.6%	57.6%
合計	2,745	100.0%	5.9%	171.7%

2. 月次受注残高の推移

(百万円未満切捨て)

区分	2021/2	2021/3	2021/4	2021/5	2021/6	2021/7
半導体分野	697	753	991	979	1,095	1,122
FPD分野	324	499	512	531	499	478
その他分野	55	27	8	27	26	34
合計	1,077	1,280	1,512	1,538	1,621	1,635

区分	2021/8	2021/9	2021/10	2021/11	2021/12	2022/1
半導体分野	1,209	1,399	1,486	1,626	1,732	1,776
FPD分野	527	533	620	776	740	829
その他分野	67	67	43	8	119	139
合計	1,804	2,000	2,151	2,411	2,591	2,745

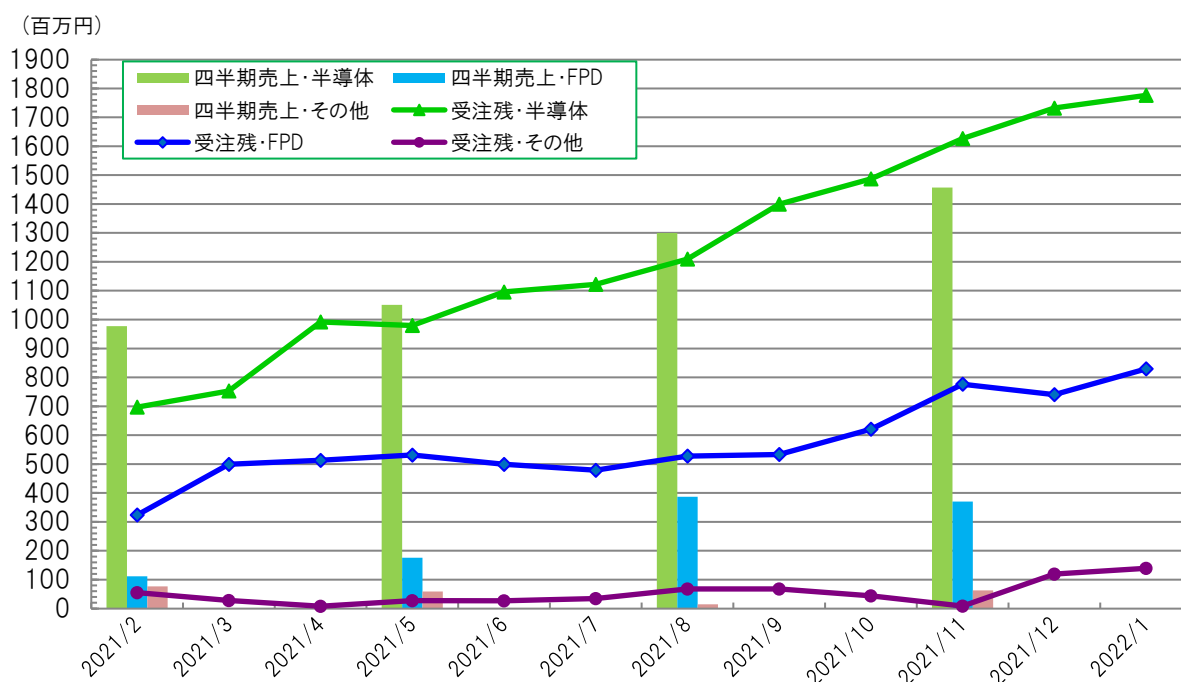
3. 月次受注残高の概況

2022年1月末の受注残高は、半導体分野においては、受注と出荷検収共に順調であったことから、対前月増減率は2.6%増、対前年同月増減率では155.0%増の1,776百万円となりました。FPD分野においては、受注と出荷検収が共に高水準ななかで、G8 O L E D向けの試作受注が重なり、対前月増減率は12.0%増、対前年同月増減率では267.9%増の829百万円となりました。その他分野においては、太陽電池製造装置向けの受注があったことから、対前月増減率は16.6%増、対前年同月増減率では57.6%増の139百万円となりました。これらの結果、2022年1月末の受注残高は、対前月増減率5.9%増、対前年同月増減率171.7%増の2,745百万円となりました。

今後の見通しといたしましては、半導体分野につきましては、顧客メーカーの部材不足による組立遅延が出始めておりますが、当社の供給する部材につきましては従来より供給不足の状態であったこともあり、現時点では大きな影響は出ておりません。しばらくは好調さが続く見通しを持っております。また、FPD分野につきましても、一部に投資計画縮小の動きが出ておりますが、当社の顧客につきましては、しばらくは現状程度の受注環境が続くことを予想しております。その他分野におきましては、太陽電池製造装置向けの引き合いが継続しており、受注に向けた活動を行ってまいります。このような好調な市場環境に対し、設備投資の増額を行いながら生産も拡大させていく予定です。

以上

(参考：分野別 過去一年間の四半期売上高と月次受注残高の推移)



- 注1. 上記受注残高の数値は、速報値であるため、翌月以降に修正される可能性があります。また、監査法人による会計監査を受けておりませんので、本決算の数値とは差異が発生する可能性があります。
2. 当社の受注残数値は、受注別に長短さまざまなリードタイムを持つことから、売上高と直接関連するものではありません。リードタイムの長い案件が増えると受注残が多くなり、リードタイムが短く当社月間生産能力範囲内の受注が増えると受注残が減る傾向となっております。
3. 当社は、一部の取引で、得意先から材料を仕入れる有償支給取引を行っています。従来は売上高に有償支給材料の費用を含めて表示しておりましたが、当期より「収益認識に関する会計基準」を適用することにより、売上高から有償支給材料を除いた純額で表示することになります。現時点の月次受注残高には8百万円の有償支給取引額が含まれています。なお、利益額に対する影響はありません。